

ISSN 0288-139X

水草研究会会報

57号(1995年12月)



Bulletin of Water Plant Society, Japan

No. 57 (Dec. 1995)

水草研究会

— 目 次 —

神谷 要・國井秀伸：宍道湖・中海周辺のため池の水草相の10年間の変化	1
國井秀伸：ヒツジグサ地下茎の長期観察	5
下山田 隆・山田卓三・岩科 司：シチメンソウ (<i>Suaeda japonica</i> Makino) の研究—紅葉について—	8
藤井伸二：徳島県吉野川におけるイセウキヤガラ <small>イセウキヤガラ</small> の記録と生態ノート	12
田中俊雄：アカウキクサ <small>アカウキクサ</small> 雑記	15
久米 修：簡易容器を使用したオニバスの発芽観察 2.	18
松本 仁：アサザ（ミツガシワ科）の大阪府茨木市・摂津市における自生について	20
神谷 要・國井秀伸：鳥取県弓が浜半島で確認したボタンウキクサの越冬	22
文献リスト，新刊紹介，他	

〔表紙写真〕

ため池の沈水植物群落（兵庫県加西市，1995年8月）

ため池の水草が受難の時代を迎えている。埋立や改修工事，水質汚濁の進行で急速に生活場所を奪われている。私自身が見つめてきたここ10～20年間の様変わりだけでも，筆舌に尽くしがたいものがある。最近，人の生活とかかわりの深いため池のような水辺の自然を見直そうという動きも起こりつつあるが，今，手を打たなければ，近い将来，ため池はただの貯水池と化してしまうだろう。さまざまな水草や昆虫たち，水鳥や魚の暮らしを支える水辺空間として，かけがえのない役割を持っていることも忘れてたくない。

写真は昨年昨年の夏に巡り会ったすばらしいため池のひとつの水草群落である。よく澄んだ水の中に，アクアリウムを思わせるような多種多様な水草が群生していた。こんなふうこんなふうに水草たちが生きられる環境を守ることができたら，と思ったものである。

写真と文 角 野 康 郎